

幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟
会報 No.54

平成29年9月30日

キラキラと輝こう

会長 馬場 洋一



「バリアフリー」と聞くと、ノンステップバスやエレベーターなど施設の構造面を考えるものだが、横浜能楽堂はその点、何歩も先んじている。3月に横浜能楽堂で「バリアフリー能」を観た。障がいのある方も一緒に能・狂言を楽しめる環境づくりをしようと、平成12年3月に第1回を開催して以来16回目となる企画だ。新聞報道など知ってはいたが、実際に拝見したのは初めてだった。演目は狂言「伯母ヶ酒」（和泉流・野村万蔵師）と能「小鍛冶」（観世流・観世喜正師）。

「公演のしつらは通常通り。」障がいのある方には、運営面・ソフト面でフォローする」との中村館長の言葉通り、舞台は通常と変わらないが、その一方運営面では行き届いた対応がなされていた。聞けば、毎回終演後に障がい者の方の意見を聞いてそれを次回に活かす、という積み重ねの結果だそう。また（公社）横浜身体障害者団体連合会等の団体との意見交換・相互協力も欠かせないという。

例を挙げてみると、障がいの種類によってサポートのための受付を設置し、点字のプログラムも用意。プログラムには能・狂言の詞章をふりがな付きで掲載し、登場人物のイラストが添えられていた。副音声、手話通訳、タブレット端末による字幕配信……。最新のIT技術を活用した、話題のメガネ型ウェアブル端末による字幕配信などは、まさに古典芸能と現代機器の融合と言えよう。

このあたりまでは事前情報があったのだが、実際に見所にして「なるほど」と体感したことも多かった。例えば、開演5分前を告げるベルの代わりに場内が一瞬暗くなったのには驚いたが、これは聴覚障がい者への配慮だという。

また、すべての座席指定券に点字シールが貼ってあった。その準備段階での苦労話を聞いたのだが、職員全員が点字を読めるわけではなく、文字印刷の座席番号と点字シールの内容を合致させるために、まずチケットと点字シールの両方を全部並べて、間違いないように順番に貼っていったそう。その緊張は如何ばかりだったろうか。

こうした地道な努力が、今のバリアフリー能を作り上げている。同様の企画を始めたいと、この公演には石川県立能楽堂が視察に見えたそう。誰かが能楽を楽しめる環境づくりの試みが、ここ横浜を起点に全国各地に広がるのは、喜ばしいことである。

と。目標実現のためにそれぞれが自らの役割を全うすることである。また「外部からの様々な意見や社会情勢を素直に受け入れ、真摯に取り組むことも必要だ」とも。

勢いのある組織に属していると、人はキラキラと輝いて見えるものだ。横浜能楽連盟の会員たちは、「能楽が好き」「仲間が好き」「先生が好き」「健康のため」など理由は異なるが、誰もがみんな輝いている。個の輝きを集めて、大きくキラキラと輝く連盟にしたいと思う。歩みはのろくとも、輝く目標に向かって進み続けよう。

連盟報告 (平成28年度)

企画事業担当 青山 圭佑

横浜能楽連盟の主な事業は、会員等の出演による年2回の大会「横浜五流能楽大会」（10月開催）「五流交流のつどい」（3月開催）の主催、横浜能楽堂主催のプロ能楽師による「横浜能」（6月開催）への協力、能楽関連団体等への後援（連盟への申請による）、会報「幽玄」の発行（年2回）、また、チラシや号外も発行しております。

また、これらの事業実施のために、年5回の理事会を開いております。毎年4月には総会も実施しています。

年2回の大会準備は、担当流派の幹事により、出演要請や番組作成等、半年くらい前から開始されています。開始日の2年前には、横浜能楽堂の予約を行います。担当流派幹事は必要に応じて会合を行い、準備を進めております。最近では、番組のほかにPRのために写真入りのチラシを作成し、横浜市内の各地区センター等にも配布しており、徐々にその効果が表れてきているように思えます。

◆事業報告◆

一、連盟会員数の動向

平成29年3月31日現在、個人会員415名、団体会員43で、流派別個人会員数は、観世流142、観世流梅若会43、宝生流53、喜多流32、金剛流59、金清流56、下懸宝生流26、及び面友会4、となっております。

◎第33回横浜五流能楽大会

平成29年10月7日（土） 午前9時45分開始

会場：横浜能楽堂／入場無料

五流競演曲「三井寺道行」他、謡と仕舞が演じられます。

二、大会の開催

「横浜五流能楽大会」(担当流派・観世流)、平成28年10月1日(土)開催。

「第20回記念 五流交流のつどい」(担当流派・喜多流、海謡会)、平成29年3月11日(土)開催。

三、横浜能について

第64回横浜能は、平成28年6月4日(土)、能「八島」(宝生流)・狂言「空腕」(和泉流)にて開催されました。

また第65回横浜能は、平成29年6月17日(土)、能「養老」(観世流・梅若紀彰師)・狂言「薬水」(和泉流・野村又三郎師)にて開催されました。チケット完売、入場率は92・4%でした。

第20回記念「五流交流のつどい」報告

喜多流 中村 佐千夫

平成29年3月11日(土)、横浜能楽連盟主催「第20回記念五流交流のつどい」が横浜能楽堂において開催されました。

開始は午前9時30分、終了は午後5時12分でした。予定より18分短縮となりましたが、これは、今回より舞台を降りる際に全員が見台を持ち帰るようにした(高見台は除く)ことによる効果もあったと思います。

高見台については、横浜能楽

堂のご尽力で、6台増加されて10台となり、利用希望者に十分対応できました。有難く感謝いたします。

総番数は38番(素謡17・連吟4・仕舞16・独調1)、出席者は延べ252名でした。

めくりは、新たに5枚作成しました。

なお、特別招待としては、恵泉女学園大学喜多流能楽部を指導されている大村 定師にご紹介をいただき、所属の学生さんに出演していただきました。演目は仕舞3番(八島・羽衣・鞍馬天狗)で、若さ漲る華やかな舞を演じました。学生さん達は「多くの観客の前で緊張しましたが、良い経験になりました」と喜びを語ってくれました。年齢の高い会員が多い中、このように若い世代の皆さんが能楽に研鑽している姿を見ると、何よりも自分達の励みになると思います。

大会の準備においては、海謡会の小田切さんと共に進め、申込み受付から番組作成・校正・印刷と、順調に進行いたしました。各流派取り纏め責任者の皆様のご協力のお陰と、感謝しております。

最後に、今回「幽玄」号外3号を発行しましたが、創刊号・2号の発行を手がけられた担当

幹事のご苦勞を、身をもって体感しました。何をテーマとするのか、それをどのように表現するのかなど、完成までの一連の流れを幹事流だけで進めることの是非についても、考えさせられました。今後は、推進担当の役員が決まりましたので、方針に則って能楽の様々な事柄を紹介し、一般の方々が能楽に親しむ機会を更に増やしていただけるものと、期待を膨らませております。

偶然からの始まり

観世流 鈴木 美恵子

12年前、市の広報に出ていた「初めての謡・仕舞教室：参加者募集」の小さな記事、それが謡と仕舞に向き合うことになったきっかけでした。横浜能楽堂で10回の稽古、講師Ⅱ岡本房雄(シテ方観世流)、その後本舞台で発表会、との案内を見て、面白そうという気持ちですぐ応募しました。運よく選ばれ、教室が始まりました。

謡は「観世流初心謡本・上」の鶴亀・橋弁慶・吉野天人・大佛供養・土蜘蛛の5曲で、仕舞は8曲の中から選択。私は熊野を選びました。教室で習うことは盛り沢山で、初心者の方にとってはどれもこれも初めてのこ

とばかりでしたが、先生は熱心に指導して下さいました。その一つ一つを聞き逃さないよう、必死で覚えようと、無我夢中でした。

10回の稽古はアツという間に終わり、すぐ本舞台での発表会。仕舞では扇を広げたら裏返し。アツと思いましたが、平常心平常心、と心の中でつぶやきながら舞い、何とか終わりました。謡は、練習通り出来たのか覚えていません。

たったの3か月間でしたが、終わってしまふとなんだか寂しくなり、先生の稽古場に通い始めました。自分から習いたくて始めたというものの、稽古が進むにつれて出来ないことや解らないことが多くなり、やはり私にとっては一番縁遠い世界だったのか、とんでもないことを始めてしまったものだと、何度も何度も思いました。それがこうして続けていられるのは、仲間や先輩からの励ましがあるからです。

初めて観た能では、衣裳が綺麗、面が素敵で、囃子方の笛や小鼓・大鼓・太鼓などの和の音にも魅了されましたが、何度か観ていくうちに、それぞれの演目の雰囲気というか独特の世界観、空気感に自然と惹き込まれていくようになりました。

こうした雰囲気が出せるようになりたいとは思いますが、いつになることか…。それでも少しでも近づけるようになりたいと思います。

日頃の稽古で注意されることを、一つでも少なくするとともに、楽しみながら練習できるようになる日がいつになったら来るのかな…などと思いつつ、それを楽しみに日々稽古をしています。

京都は謡曲の宝石箱

観世流梅若会 清水 典子

私が、主人の勤め先の関係で平安建都1200年の京都に移り住み、早いもので5年が経ちました。世界一の観光都市として、様々な観光名所や繁華街の四条通・河原町通などに、外国人観光客が極めて多いことを実感しています。

しかし、かかる現実の世界とは裏腹に、名所旧跡の他にも普段の生活の一部に謡曲ゆかりの地名を目にすることで、まさに京都は「謡曲の宝石箱」だと感じています。それでは、皆様にいくつかの宝石をご紹介します。

まず、銀閣寺近くの北白川は「隅田川」のシテの出身地。私の現在の住まいは五条大橋の傍

らですが、ここは「橋弁慶」の舞台。通院していた日赤病院の近くには「熊野」に謡われている「今熊野」があります。そして、毎日眺める東山の北から南への風景は「花の都を立ちいでて」と謡われる「蟬丸」の道行の詞章を思い出させます。

蟬丸の姉宮逆髪は、御所を彷徨い出て東へ向かい、鴨川を渡り、京の青山通と言われる白川

通を経て、平安神宮や多くの美術館のある岡崎公園付近の栗田口に到着します。そして、紅葉が美しい青蓮院、法然上人が念仏道場とした門跡の雄大な知恩院、ねねが秀吉の菩提を弔った

高台寺、世界遺産の清水寺等々多くの名所がある音羽山の山麓を、都に心を残しつつ歩き、大石内蔵助が隠居生活をしていた山科（この辺りには秀吉が花見をした醍醐寺、花菖蒲や睡蓮の見どころ勧修寺、化粧の井戸が有名な小野小町邸宅跡の随心院があります）を抜け、宇治を経て山城国と近江国の国境、逢坂の関に出ます。

このように京都は、謡曲を知るものにとって、とても魅力的なスポットです。そして外国人観光客にとっても大変魅力があるようです。彼らは集団で行動して道を塞ぐことがあり、後ろを通る際に「失礼」と声を掛け

ても気づかれません。そこで、最近「ソーリー」と声を掛けるようにしています。これが効果的で「オー、ゴメンナサイ」とすぐに通じていただけです。ところが、これに気を良くして「ソーリー」を連発してしましたところ、英語が堪能と誤解されて話し掛けられてしまい、困ったことがあります。

歴史ある神社仏閣を有し、また多くの外国人をも魅了している京都は、まさしく「謡曲の宝石箱」として、数百年後の未来の人々へもずっと、謡曲の題材を提供していくことでしょう。

演能会観客増加策

宝生流 大前 数美

現今、有料での能・狂言の催しは、1か月に日本全国で平均100公演程あると言われているが、少なく見積もっても2万人から3万人の人々が能・狂言を鑑賞していることになりました。これは他の古典演劇に比べても大変な数で、能・狂言は盛況期を迎えていると言えますが、私は、もともと能・狂言を観る人を増やせる方法はないものかと考えてみました。

平成22年に法政大学で開かれた能楽講座を受講した時のことです。能楽研究の泰斗、表章氏

の講義の際に質問する機会がありましたので、以前より疑問に感じていた「世阿弥の活躍した時代には、今よりももっと多くの能が1日に演じられているが、現在に比べて一番の能が演じられる時間は同じ程度であったのだろうか」という点をお尋ねしました。表先生のお答えは「一番の能を演じるのに要する時間（能時間と言われた）は、室町中期までは今の半分以下であり、それが漸次延びてきて室町末期には60%に達し、江戸初期には70%に近づいた」とのことでした。江戸時代に幕府によってなされた能楽の式楽化が、能時間の長大化の最大要因とも言われ、現在の能時間に至っているのでしょうか。

私の考える観客増加策は、この能時間を世阿弥時代から室町末期ぐらいまでの、60%程度にしてはどうかというものです。現今では、全ての曲ではありませんが、1曲平均約77分という統計があるそうで、それを60%にすれば約46分と短くなり、私のように観能中に居眠りしたりする間もなく（居眠りするものも観る楽しみの一つという説もあります）終了します。それにより1日の演能番数を更に一番二番増やしたり、夜の演能会を多くすることで、能を観に

来る人が、増えるのではないかと考えます。

近藤乾三師（宝生流能楽師）の随筆『さるをがせ』には、九郎先生（第16世宝生流宗家）の想い出として、だんだん世の中が忙しくなってきた能をゆつくり観る人も少なくなるだろうかと、従来は五段であった序ノ舞を宝生流では三段に舞うことに決めてしまった、という趣旨のことが書かれています。明治時代から能時間の短縮はあったのかもしれないと思います。

謡と私

金春流 徳本 薫子

私と謡との出会いは、もう50年近く前のことになりましたが、日曜日朝の、FM放送の能楽の時間でした。平日と違い少しゆつくりの朝、意味も内容もわからなかったけれど、ゆったりした中に凛とした空気が感じられ、スツキリと気分の良い時間でした。

それからずいぶん時も過ぎ、タウン紙が何かで「能楽講座」の案内を見て「面白そう」と思って通いました。しかし、謡ができたらいよいよの思いはあったものの、その時いただいた「謡会へのおさそい」もそのままだに、2年程たってしまいました。

た。ようやく電話した時に「お花見しながら謡ってますよ」との言葉に誘われて、お稽古に通うようになりました。

思えばそれから20年近くにもなるのに、上達はせず、もう少し声が良かったら、もう少し時間が取れたら、と勝手な言い訳をしながら、それでも何とか続けていられるのは、二宮先生と仲間の皆様のおかげです。「奈良若宮の御祭り」や「庄内黒川能」への旅も一緒にさせていただき、世界が広がりました。これからも、楽しみながら続けていきたいと思っています。

謡曲との出会い

喜多流 三宅 洋

私が謡曲の稽古を始めたのは15年前、58歳になった頃で、きっかけは、会社の同好会のメンバー補充のために強引に引きずり込まれたことでした。それまで能については漠然とした知識しかなく、結婚式の祝いの席で「高砂」が謡われる場面などを思い起こしたりしましたが、実際に能舞台を観て感動したという格別の体験など全くありませんでした。

同好会の名称は「浜友会」と言って、横浜の「浜」と友枝昭世先生の「友」を重ねたものだ

と聞いています。ご承知の通り友枝先生は、喜多流の能楽師で人間国宝の方です。縁あって「浜友会」のご指導を頂いて45年近くが経過していますが、月に2回先生のご指導を間近に体験できることは、またとない幸せなことと思っています。稽古の度に朗々とした太くて豊かなお声を耳にしますと、背筋がピンと伸びて緊張の中に充実した時間が流れていきます。全国にたくさんおられる友枝先生のファンの方からは、なんと贅

能楽堂だより

29年10月～30年3月の公演案内

10月以降の横浜能楽堂の公演予定は、次の通りです。このほか毎月第二日曜日に普及公演「横浜狂言堂」を開催いたします。

企画公演「能の花 能を彩る花」(全5回)

いけばな 池坊専好(華道家元池坊次期家元)
第1回「菊」10月28日(土) 午後2時開演
〈復曲〉能「菊慈童 酈縣山(観世流) 梅若玄祥
第2回「紅葉」11月23日(木・祝) 午後2時開演
能「紅葉狩 紅葉ノ舞 群鬼ノ伝」金春流 金春安明
第3回「牡丹」30年1月13日(土) 午後2時開演
能「石橋 大獅子」(観世流) 片山九郎右衛門
第4回「梅」30年2月10日(土) 午後2時開演
能「東北」(観世流) 大槻文蔵
第5回「桜」30年3月10日(土) 午後2時開演
能「泰山府君」(金剛流) 金剛永謹
各回ともS席七千円/A席六千円/B席五千円
チケット発売中

沢なこと?と羨ましく思われるかもしれません。

さて、入会したものの初めのうちは右も左もわからず、先輩の方について口先で恐る恐る声を出していました。もつと腹に力を入れて発声するようにと、口を酸っぱくしての指導を受けましたが、言われてすぐにはできるものでもありません。その後、発表会を重ねるにつれて全員の息がピタッと合った時の充実感と高揚感から、次第に興味が深まっていき、自宅で声を

出して練習することも多くなりました。先生のお声をテープに収録してオウム返しに繰り返しますが、当然のことながらその落差のあまりの大きさに打ちひしがれてしまいます。隣の部屋で聞いている妻からは「まるでなっていない」と厳しい声が絶えません。あたり前じゃないか、相手は人間国宝の方なんだから、強がりと言うのが関の山です。

人生の残りの時間が数えられるほどの年齢になってから、週1回ほどの謡の練習会に通う私があります。

謡を習って思うこと

下懸宝生流 後藤 由美子

っているのか聞き取るのも難しいのです。あらずじを知っていても、言葉も謡も舞も意味が解らないままでは、見終わった時に感想もありません。やはり内容を理解したうえで舞台を観ないと、装束や面の表す機微まで楽しむことはできないのです。謡を習い言葉を覚えてから再度同じ曲の舞台を観れば、何倍も面白く感じます。

横浜では、子供たちが現代の名人から狂言を習えるお教室もあるようです。人々が能・狂言の世界を知る機会を増やして、少しでも興味を持つてほしいと思います。知れば必ず奥深い文化にハマるはずです。日本人独特のシャンとした気品ある文化であるという誇りを失わず、ずっと未来まで伝えていってほしいと願っています。

と、偉そうに書いてきましたけれど、下手の手習いの私も横浜五流大会の舞台に参加させていただき、日頃出すこともない大声を張ります。素人のことゆえお耳汚しご勘弁を願います。

横浜能楽連盟連絡先

◎事務局 倉藤
TEL〇四五―八三五―二三六一
◎横浜能楽堂
TEL〇四五―二六三―三〇五五

※有料公演

◎連盟後援行事

「第34回横浜かもんやま能」10月15日(日) 午後2時～ 横浜能楽堂本舞台 能「弱法師」(観世流)等
「第50回宝生流教授囃託会関東甲信越大会」10月4日(水) 横浜能楽堂本舞台 ※入場無料

横浜能楽堂・伝統組踊保存会提携公演
「能の五番 朝薫の五番」
平成30年2月4日(日) 午後2時開演
第4回「放下僧」と「二童敵討」
能「放下僧」(観世流) 味方玄
組踊「二童敵討」新垣悟 東江裕吉
S席七千円/A席六千円/B席五千円
チケット発売日 11月11日(土) 正午から
(初日は電話・Webのみ)
普及公演「バリアフリー能」
平成30年3月21日(水・祝) 午後2時開演
狂言「神鳴」(大蔵流) 茂山千五郎
能「鉄輪」(喜多流) 出雲康雅
S席四千円/A席三千五百円/B席三千円
(介助者1名まで無料)
チケット発売日 30年1月20日(土) 正午から
(初日は電話・Webのみ)

そこで、自分のこれまでを思い起こしながら、能・狂言と現代人について考えてみました。普通の現代人には、伝統芸能に触れる機会があまり無く、初めて舞台を観たときには、何を言

能楽連盟所属団体一覽

横浜能楽連盟に現在加入している44の団体に実施したアンケート結果を抜粋してご紹介いたします。
 《項目》名称①代表者（連盟名簿登録上の代表者）②現在の会員数③会の形態（同好会・同門会等）
 ④指導者⑤主な活動⑥主な活動場所⑦入会希望者受付可能かどうか⑧会の歴史・特徴など

●観世流●

◆「扇謡会」

①井實昭子

◆「富久謡会」

①尾崎雅子

◆「一謡会」

①大木和道

③同門会

④酒井純一郎（能楽師）

⑤稽古（月3回）・例会（年2回）

⑥横浜能楽堂・師の個人宅

⑦入会歓迎

◆「和謡会」

①石田榮男

◆「横濱高砂会」

①山田利子

◆「和謡会」

①山田利子

②41名

③謡と仕舞の同好会

④謡……坂井音重（能楽師）

仕舞……坂井音晴（能楽師）

⑤稽古（謡は月2回土曜、仕舞は月2回土曜と木曜）、発表会（年4回、師の大会にも参加）

⑥稽古……横浜能楽堂研修室等、発表会……横浜能楽堂・久良岐能舞台・川崎能楽堂

⑦入会歓迎《和謡会ホームページ・島山 〇〇45（843）7396》

◆「幽玄」53号記事にて紹介。

◆「幸謡会」

①高岡幸彦

②8名

③同好会

④高岡幸彦（名誉師範）

⑤稽古・例会、及び磯子文化協会大会等に出演

⑥稽古……大岡センター・磯子センター

⑦入会歓迎

⑧20年程前、故田辺竹生師から初心者指導を依頼され設立。

◆「つづき謡曲会」

①長谷川武雄

②27名

③同好会

④長谷川武雄

⑤稽古（月2回）・発表会（年5回）

⑥稽古……中川西地区センター・仲町台地区センター、発表会……都筑民家園等

⑦入会歓迎（初心者も可）

《HP: <http://h-tuduki.com/> 事務局名畑 〇〇45（532）9895》

⑧平成8年設立し20周年を迎える。

◆「海謡会」

①横山哲夫

◆「雅謡会」

①大友勝利

②22名

③同好会（指導者あり）

④園田潔

⑤例会（月1回各月最終金曜）・稽古会（月2回）

⑥横浜市南センター・フォーラム南太田

⑦入会歓迎

《大友 〇〇45（783）0568 または林

野 〇〇45（741）1932》

⑧昭和54年南センターの伝統芸能活動の一環として発足し、毎月の例会は400回を超える。

◆「一床会」

①小田切威

◆「霜月会」

①菅原秀子

◆「梅鶯会」

①吉丸朝久

◆「観岡会」

①園田義雄

◆「白謡会」

①青山圭佑

◆「観世流梅若会」

◆「宏枝会」

①堀内万紗子

②16名

③お稽古会

④堀内万紗子

⑤稽古・合同発表会（年1回）

⑥堀内宅

⑧以前も教室はあったが45年程前に梅若恭行師の梅安会より一文字

◆「宏声会」

①山口恭江

②5名

③同門会の一部会員

④梅若長左衛門（能楽師）

⑤稽古・発表会

⑥稽古……師の自宅、発表会……梅若能学院会館等

⑧昭和50年頃創設の故高橋則子師

の社中で、会員はその後梅靖会に入門しているが、会の名前を残したいと存続している。

◆「梅靖会」

①中戸史子

②2名

③玄人の同門会

④梅若長左衛門（能楽師）

⑤稽古・発表会

⑥師のお稽古場

⑦入会歓迎

◆「中英会」

①桑原弥兵衛

②8名

③同好会

④稽古

⑤自治会館

⑦入会歓迎

◆「横濱梅若連合会」

①堀内万紗子

③横濱を中心とした梅若会の連合会（特に活動はしていない）

◆「晃謡会」

①山本晃嗣

②7名

③同好会

④山本晃嗣

⑤稽古（月2回）・発表会（年1回）

⑥稽古……すき野中学校空き教室

⑦入会歓迎

◆「眞謡会」

①吉丸朝久

②5名

③同好会

④山本晃嗣

⑤稽古（月2回）・発表会（年1回）

⑥稽古……すき野中学校空き教室

⑦入会歓迎

◆「眞謡会」

①吉丸朝久

●宝生流●

◆「横濱宝生流連合会」

①服部雅夫

②91名

③同好会

⑤例会（月1回第4土曜）・大会（年1回8月）

⑥例会……横浜能楽堂第2舞台、大会……横浜能楽堂本舞台

⑦入会歓迎

《服部 〇〇46（88）2040》

⑧横濱近隣で宝生流の稽古をする流友の会。昭和63年設立。

◆「宝友会」

①小林美佐子

②5名

③同好会

④小林美佐子（教授嘱託）

⑤稽古・宝生流大会等に出演

⑥稽古……小林自宅

◆「架雲会・横浜」

①山添富士子

②10名

③同門会の一部

④高橋章（能楽師）

⑧横濱近隣の高橋師門下生で構成され、宝生流大会等に出演。

◆「宝生流教授嘱託会

神奈川県支部」

①吉田澄夫

②52名

③同好会

⑤例会（月1回第3日曜）・大会（年3回）

⑥例会……横浜能楽堂第2舞台、大会……横浜能楽堂本舞台等

⑧全国組織である教授嘱託会の県支部。月例会は580回を超える。

全国大会・地区大会にも参加。

◆「鎌倉宝生会」

①坂井善朗

③同好会

◆「宝円会」

①北見康成

②21名

③同門会

④前田親子（能楽師）

⑤稽古（月3回）・大会（1回毎年11月）

⑥稽古：久良岐能舞台他2か所、大会：久良岐能舞台

⑦入会歓迎（初心者も可）

《北見 8045（826）1138》

⑧大会は26回を数える。

◆「逗子宝生会」

①服部雅夫

②15名

③同好会

⑤例会（月1回第1日曜）

⑥松汀園（逗子市内）

⑦入会歓迎

《服部 80466（88）2040》

⑧戦後間もなくの設立。来年会は800回を迎える。

●喜多流

◆「洋謡会」

①馬場洋一

②3名

③同好会

④友枝昭世（能楽師）

⑤稽古（月2回）・横浜喜多会（6月）等大会に出演（年2回）

⑥稽古：海洋会館会議室、例会：久良岐能舞台

⑧昭和62年、当時連盟理事の故浦部氏により設立。友枝師の昭謡会と合併するも名称は「洋謡会」を

存続。

◆「浜友会」

①大館惺雄

②9名

③企業内同好会

④友枝昭世（能楽師）

⑤稽古（月2回）・横浜喜多会大会等に出演

⑥稽古：会社の会議室

◆「湘南安信会」

①松永次郎

②4名

③同門会の一部

④内田安信（能楽師）

⑤横浜喜多会大会等に出演

⑧湘南地区の内田門下生で構成され、大会に出演。

◆「出雲会」

①栗野稔

②41名

③同門会

④出雲康雅（能楽師）

⑤稽古（個人及びグループで月2回）・発表会（年2回）

⑥稽古：横浜能楽堂等、発表会：横浜能楽堂本舞台

⑦入会歓迎

《栗野 8045（864）6328》

⑧平成10年に第1回発表会を開催。今年で37回を数える。横浜喜多会にも所属し大会に出演。

◆「藤謡会」

①伊藤節子

②5名

③同好会

④伊藤節子（謡教授舞教士）

⑤友枝師の夏の稽古会と秋の発表会に参加

⑥喜多能楽堂・友枝舞台
⑧平成10年「横浜市民のための謡曲教室・喜多流」として発足。その後希望者は友枝門下となる。

●金剛流

◆「I・H文化体育会」

①道明辰雄

③企業内同好会

⑧「幽玄」53号記事にて紹介。

◆「横浜金剛会」

①豊増清明

②110名

⑧「幽玄」50号記事にて紹介。

◆「金剛流久良岐会」

①松井美奈子

②60名

③同門会

④熊谷伸一・眞知子（能楽師）

⑤稽古・発表会（年2回）・参加団体の大会等に出演。

⑥稽古：久良岐会稽古場（日ノ出町）等グループごとの稽古場、発表会：久良岐能舞台等

⑦入会歓迎（初心者も可）

《熊谷 8046（873）8224》

Eメール zusi.kumagai@nifty.ne.jp

⑧平成5年設立。「幽玄」52号記事にても紹介。

◆「豊友会」

①倉藤睦子

②15名

③大学謡曲部OB及び豊嶋師門下生による同好会

④豊嶋三千春（能楽師）

⑤大学OBを中心とした能楽師・師範

⑥「横浜金剛会」に所属し大会等に出演。また各地の謡曲会・全国

大学OB会等に出演。

●金春流

◆「春日会」

①設楽友里子

②15名

③同好会

⑤月1回程度の例会

⑥杉田地区センター

◆「面の会」

①岩崎久人

②15名

③面打教室

⑤面の展示会（年1回）

⑦面打教室参加者歓迎

《岩崎 磯子区森3-19-7》

⑧岩崎個人は春日会に所属し、守屋師の指導を受けている。自作の面でも舞っている。

◆「高砂やを謡おう会・都筑」

①二宮倫行

②10名

③同門会

④二宮倫行

⑥遊山房（都筑区中川）

⑦入会歓迎（初心者も可）

《二宮 8045（913）2725》

⑧1995年に開催した「くづきの丘新能」（実行委員長二宮）をきっかけに立ち上げた稽古会。

◆「春綱会」

①山井綱雄

②30名

③同門会

④山井綱雄（能楽師）

⑤稽古・練成会・発表会

⑥関内ホール

⑦入会歓迎（初心者も可）

《山井 809047569548》

●下懸宝生流

◆「火謡会」

①藤田忠弘

②21名

③同好会

④宝生欣哉（能楽師）

⑤稽古・例会・発表会

⑥稽古：港区区民センター、発表会：小竹能舞台（先生宅）・矢来能楽堂・横浜能楽堂

⑦入会歓迎《インターネット上で公開中》

⑧昭和38年頃早稲田大学謡曲部OBが故宝生閑師に指導をお願いして設立。

◆「峰謡会」

①藤田忠弘

②14名

③同好会

④藤田忠弘（師範）

⑤稽古（2教室各月2回）・発表会（年1回）

⑥地区センター・自治会館

⑦入会歓迎（初心者も可）

《藤田 8045（832）1844》

⑧2008年自治会同好会として発足。

●面友会

①渡辺松霜

②39名

③能面彫刻教室

④渡辺松霜

⑤能面彫刻指導

⑥上大岡第2町内会事務所

⑧1975年頃父が創設した教室を引き継ぐ。今年37回目の展示会を開催。